

袋詰め夢

2016年09月25日

予備エサを詰め込んだビニール袋を、竿ケースやバッグと共にボートにポーン。
放り込むやいなや、目指すポイントに向けて一直線。クラッチをガチャガチャ言わせて全力でね。
そんな先輩方に憧れた時代がありました。いま見ればスマートとは言えないのかもしれないけど。

元々は、水と一緒にヘラを入れ、生かしたまま検量場所へ運び込むためのもので、エサ袋としての利用は二次的なものの、筈。そのため、かなり厚みのあるビニール製となっていますが、当然ながら大釣りには対応出来ません。即ち、野のヘラブナ競技会における釣果は、こんなビニール袋で足りる世界だったことになりますね。日曜日で混雑すれば現代でも同じかな。つか、日研では今でも配布してるんですかね？



赤はレア？んなことは無いかなσ(^_^;)



ブルーの方が見慣れていた気がしますが、どうなのでしょう。つか、これらが家にあるってことは、日研行事で散々デコったってことなんです（笑）



この三平君の顔は好きですね。

ざっくり言えば、中期かな。いや、前期の終わりくらい？

左膳イワナやブルーマーリンの頃とは顔が違います。絵のタッチが大きく変化するのが漫画家の常ですが、矢口高雄氏も例に漏れません。

ふまつげんの袋は、我が家に沢山ありました。イベントで入手しただけでなく、直接メーカーから取り寄せたためだと思います。寸法や質感から、マルキューもふまつげんも、みな同じメーカー製の袋なんじゃないかなあ、と。



一世風靡の先代碧舟。なぜ我が家にあるのか謎ですが、マーケティングってのを強く意識したという意味でも、やはり稀代のウキ作家だと思いますね。こういうものを、全てのウキ作家が作っていた訳じゃないですから。職人というより、ビジネスマンのイメージ。その路線は二代目も継承し、より強固なブランドにしていると思います。